

バリアフリーの視点で点検しました。

車いす使用者、視覚障害者、聴覚障害者、杖をついている人など様々な障害のある人をはじめ、高齢者、幼児連れの人、外国人、美観地区内の事業者など、様々な立場の市民（72名）が参加して、ワークショップを実施しました。

美観地区内の6施設に協力いただき、市民、事業者、行政と一緒に観光の実体験を行い、バリアフリーの視点から見た美観地区の課題、改善点について意見をいただきました。

公共空間（外部空間）で

- 一人では移動が難しい段差があります。
- 道幅が狭く、車も通るため、安心して通行できません。
- 倉敷川への転落防止対策が必要です。



宿泊施設では

- スロープが設置されていても、適切な介助があると助かります。
- 補助犬の同伴可や筆談対応などが表示してであると安心です。
- ドアノブや蛇口などに使いにくいものがあります。



文化観光施設で

- 展示の解説板の位置や文字の大きさに配慮が必要で。
- 階段に手すりがあると安心です。
- 車いすで入れる施設が少ない。



商業施設では

- 筆談に気軽に応じてもらえるような、おもてなしの心が大切です。
- お勧めなどを紹介してもらえるとう助かります。



案内所で

- 倉敷館の2階からの眺めは素晴らしいです。すべての人が2階を利用できるようにしてほしい。
- バリアフリーに関する現地案内を充実してほしい。



美観地区バリアフリー整備事業

成果目標	整 備 メ ニ ュ ー	事 業 主 体	事業時期	
			第Ⅰ期	第Ⅱ期
だれもが安全、安心して周遊・散策できる	景観保全と調和した倉敷川への転落防止への試行的整備	倉敷市		○
	バリアフリーモデルルートの整備（路面の凹凸、中橋の段差の改善等）	倉敷市	○	
	新溪園の周遊・散策ルートの充実	倉敷市 施設管理者	○	
	電線類地中化等による歩行空間の確保	倉敷市	○	
	交通規制等による歩車共存道路化への取り組み	倉敷市	○	
	既存サインの改善（文字の大きさ、多言語表記等）	倉敷市	○	
	新しい誘導案内システムの導入検討	倉敷市		○
だれもが自分のペースで周遊・散策できる	観光案内所の機能充実（倉敷館の新たな活用、バリアフリー化の検討）	倉敷市	○	
	休憩場所（ベンチ）の増設	倉敷市 施設管理者	○	
だれもが施設にスムーズに入れる	入口の段差解消（スロープの設置など）	施設管理者		○
	伝統的建造物群を構成している建築物については、ポータブルスロープの設置	施設管理者	○	
	補助犬同伴可ステッカーの掲示	(社)倉敷観光コンベンションビューロー 施設管理者		○継続実施
	(仮称)ウエルカムステッカーの掲示（筆談、介助等の対応可能なことを示す）	施設管理者		○継続実施
だれもが安全、快適にトイレが利用できる	多目的トイレの機能の充実（オストメイト対応、視覚障害者対応など）	倉敷市	○	
	既存トイレのバリアフリー化（入口の段差解消、洋式トイレの設置、手すりの設置）	倉敷市 施設管理者		○
	(仮称)おもてなしトイレ制度の導入（民間トイレの開放）	(社)倉敷観光コンベンションビューロー 施設管理者		○継続実施
だれもが美観地区に必要な情報を知ることができる	ホームページによる事前情報提供の充実	倉敷市		○継続実施
	(仮称)おもてなしマップの作成（バリアフリー情報、バリア情報の提供）	倉敷市 (社)倉敷観光コンベンションビューロー		○継続実施
	(仮称)まちなみ解説板の整備（倉敷の歴史や文化、景観などについて、文字や音声で提供するもの）	倉敷市 (社)倉敷観光コンベンションビューロー	○	
	観光ボランティアガイドの充実	倉敷市ボランティア協会 (社)倉敷観光コンベンションビューロー		○継続実施
だれもが安全、快適に宿泊、食事、買い物ができる	バリアフリー対応の宿泊部屋の整備	施設管理者		○
	通路等の改修	施設管理者		○
	緊急時のバリアフリー対応（非常時の伝達方法、避難経路誘導等）	施設管理者		○
	備品（机、椅子など）等のバリアフリー対応	施設管理者		○
	車いす使用者等優先席の表示	(社)倉敷観光コンベンションビューロー 施設管理者		○継続実施
	点字メニューの設置	施設管理者		○継続実施
	おもてなしの充実（声かけ、介助等）	施設管理者		○継続実施
その他（バリアフリー化を促進させる事業）	おもてなし講習会（介助マナー等）の実施	(社)倉敷観光コンベンションビューロー		○継続実施
	観光地におけるバリアフリー整備事例集の作成	倉敷市 (社)倉敷観光コンベンションビューロー		○継続実施
	新築、改修、改善時のバリアフリー化に対するアドバイス	倉敷市 (社)倉敷観光コンベンションビューロー		○継続実施
	美観地区バリアフリー整備計画の進捗管理・事後評価	倉敷市		○継続実施

第Ⅰ期：3年以内に着手するもの 第Ⅱ期：5年以内に着手をめざすもの



倉敷市

発行日 ● 平成20年3月

発行 ● 倉敷市

編集 ● 倉敷市建設局都市計画部交通政策課

〒710-8565 倉敷市西中新田640番地
TEL 086-426-3545 / FAX 086-421-1600

URL ● <http://www.city.kurashiki.okayama.jp/koutsu/index.html>

倉敷市 美観地区バリアフリー 整備計画

概要版

歴史、文化、人々の心の美しさを
五感で感じるまちづくり



平成20年3月
倉敷市

美観地区バリアフリー整備計画とは・・・

倉敷市では平成18年3月に交通バリアフリー法に基づく基本構想を策定し、その中で美観地区周辺をバリアフリーの視点から総合的に検討を行う地区として位置づけました。

しかし、美観地区は歴史的景観を保全する伝統的建造物群保存地区に指定されていることもあり、バリアフリーに関する多くの課題があります。そこで、多様な人々の視点を踏まえ、市民、事業者（観光、商業など）、行政が協働で「バリアフリー化」、「景観保全」、「観光まちづくり」の3視点から、総合的な対策を検討し、「美観地区バリアフリー整備計画」を策定しました。

美観地区バリアフリー整備目標

おもてなしの心

歴史・文化

歴史、文化、人々の心の美しさを
五感で感じるまちづくり
—— 美観地区の地域価値の向上 ——

歴史的な
建造物

観光基盤

社会基盤

五感で感じるとは・・・

「見る」＝ 歴史的な美しいまちなみを見て楽しむ。人々の営みを見て楽しむ。
「聴く」＝ 倉敷の歴史、文化を聴いて楽しむ。店舗の賑わいを聴いて楽しむ。人々との会話を楽しむ。
「触れる」＝ 歴史的な建築物などに触れて楽しむ。人々とのふれあいを楽しむ。
「味わう」＝ 倉敷の四季折々の味覚を味わう。
「かぐ」＝ 季節、時間によって変化する“まちの香り”を楽しむ。

5つの基本方針

1 何度でも訪れたいような“おもてなし”の充実

美観地区では、景観保全などの理由からハード整備では解消が難しいバリアがたくさんあります。「おもてなし」の心が大切です。一人ひとりの心がけ、互いに協力しあう体制づくり、適切な情報発信などに取り組んでいくことが大切です。

2 美観地区の歴史、文化を楽しむためのバリアフリー整備の推進

多くの来訪者は、美観地区の美しいまちなみ、歴史、文化を楽しむために訪れています。すべての人が、まちの歴史、文化をゆったりと楽しむために、情報案内、休憩機能等の充実が大切です。

3 歴史的な建物の構造を考慮したバリアフリー整備の推進

美観地区では、歴史的な建物を利用した文化施設や商業施設が、まちの魅力となっています。歴史的な建物の構造を考慮しながら、バリアフリー整備を推進していくことが重要です。

4 観光地として必要な機能のバリアフリー化の推進

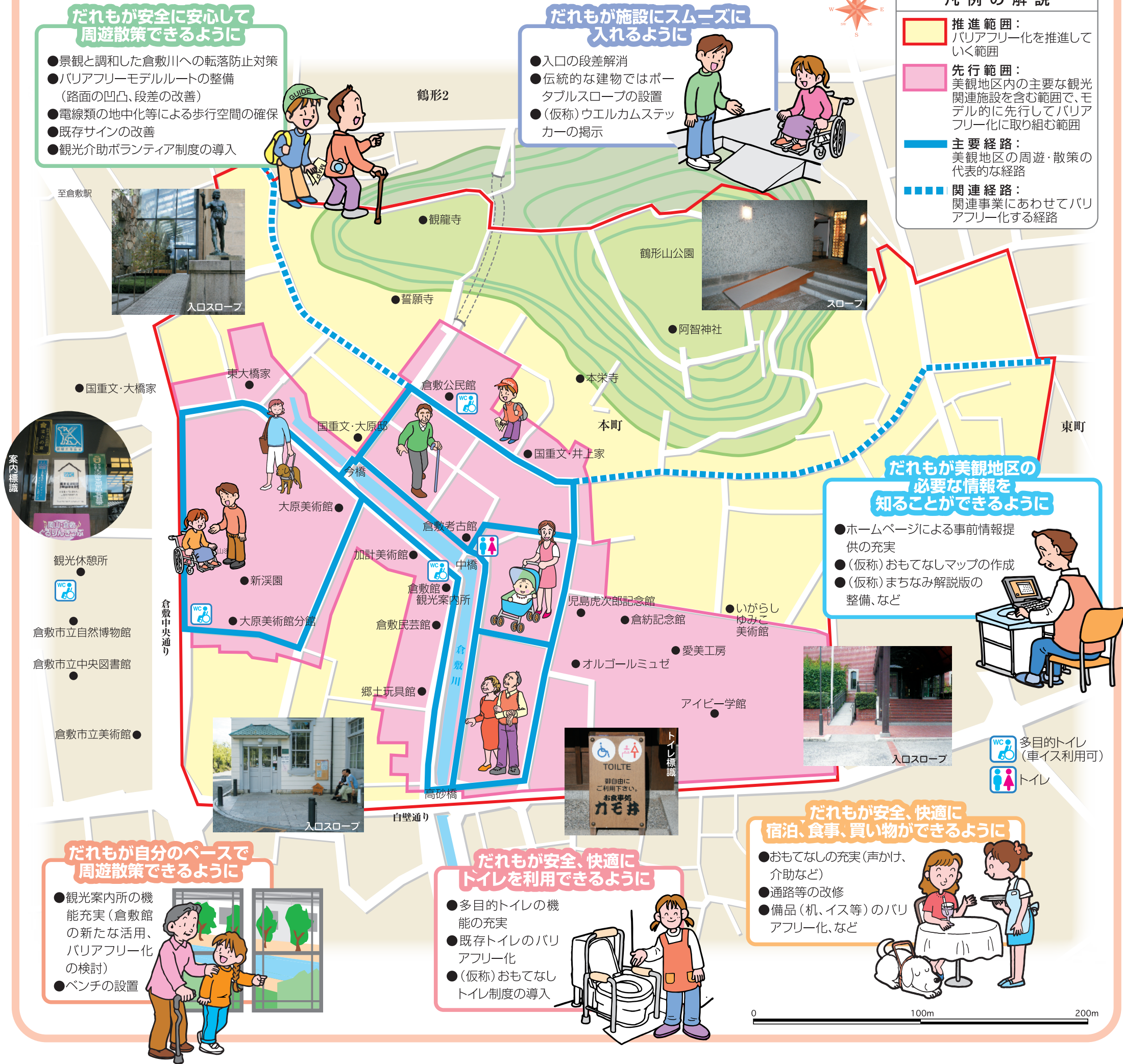
美観地区は年間300万人以上も観光客が訪れる国内有数の観光都市です。代表的な観光地にふさわしいバリアフリー化を推進していく必要があります。

5 景観の保全と調和のとれた社会基盤のバリアフリー整備の推進

道路や河川といった社会基盤は、時代のニーズに応じて使われ方が変化し、その景観もよりよいものへと変化し続けています。

すべての人が美観地区を楽しめるよう、景観の保全に配慮しつつも、安全、安心を確保するために、社会基盤のバリアフリー整備を推進していく必要があります。

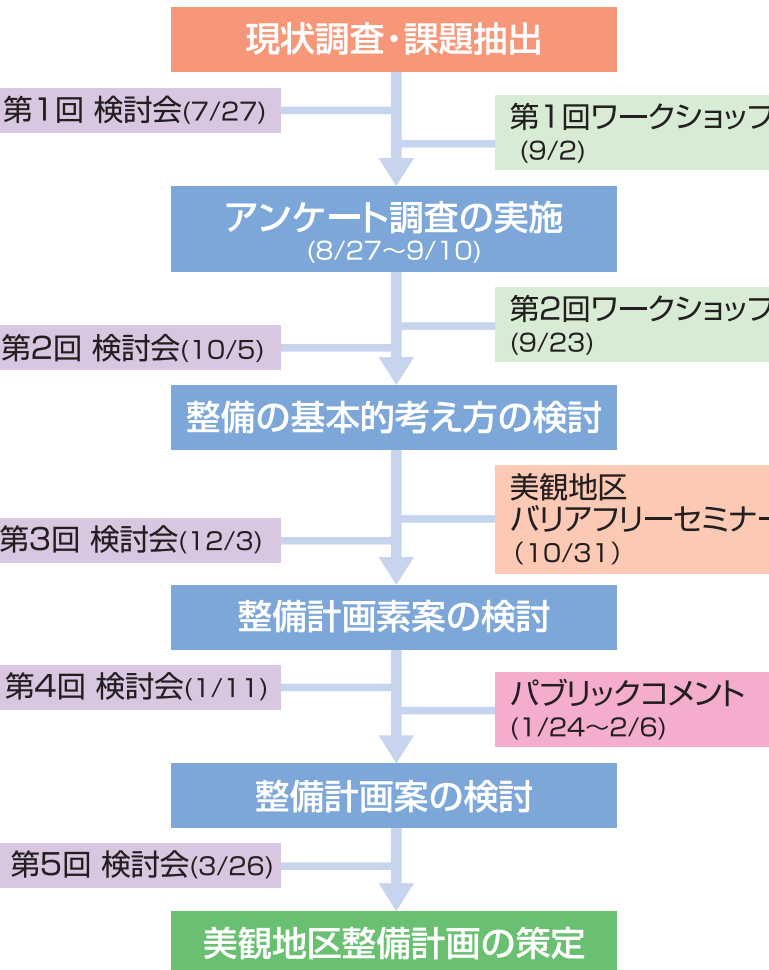
美観地区全域でバリアフリー化を推進していきます。



基本方針・整備計画の策定フロー

本計画の策定にあたっては、学識経験者、高齢者、障害者、外国人など多様な市民、美観地区関係者、観光施設関係者と行政からなる検討会を設置して検討を進めるとともに、多数の市民の参加により「ワークショップ」、「アンケート調査」も実施して市民の意見を伺い計画に反映しています。また、パブリックコメントにおいても多数の意見をいただきました。

このように本計画は、多様な市民、事業者からの意見、提案を踏まえ、市民、事業者、行政がともに協議した結果を反映して策定しました。



美観地区のバリアフリー整備の実現に向けて —— 市民、事業者、行政の協働で進めていきます ——

美観地区のバリアフリー化を図るには、市民、事業者、行政が共通認識を持ち、互いに協力できる体制がなければ推進することはできません。

事業の実施にあたっては、景観保全との調和に慎重な検討が必要であり、市民や関係機関の理解と協力を得ながら、長期的に取り組んでいく必要があります。

みなさんと一緒に「歴史、文化、人々の心の美しさを五感で感じるまちづくり」にとり組みましょう。

